

# 日本も批准 障害者権利条約



■絵本を手に「条約の精神が守られているか注視したい」と話す藤井克徳さん=東京都新宿区で  
●「えほん障害者権利条約」

## 差別ない社会 心に描いた

東京新聞  
夕刊



心に描く社会を絵本に  
障害者権利条約  
が目指す世界を広く知つてもらおう  
と、全盲男性が絵本を出版した。

障害者への差別禁止と社会参加実現を目的に国連が一〇六年に採択し、昨年一月に日本が批准した「障害者権利条約」。この条約が目指す社会を広く知つてもらおうと、全盲の視覚障害者で、NPO法人日本障害者協議会(東京都新宿区)代表を務める藤井克徳さん(六五)が「えほん障害者権利条約」を出版した。「条約を生かした社会になれば、障害者だけでなく、だれにどつても暮らしがやすくなる」と語る。(小形佳奈)

「障害者権利条約がきちんと守られたらどうなるのだろう?」。絵本を開くる。

生まれつき弱視だった藤井さんは、角膜移植を五回ほど受けた。みんなが抱き合ふ雰囲気を感じてぞくぞくした

日本障害者協議会代表として、何度も米ニューヨークを訪れ、条約制定に向けた国連の特別委員会を傍聴し続けた。〇六年八月、特別委で条約草案が仮決定された時の盛り上がりを鮮明に覚えている。「歓喜の口笛、足踏みが三分ほど続いた」と藤井さん。条約の精神を、幅広い世代に伝えた

ところが、「かなり人権意識が高いと思われる企業で条約を話題にしても『知らない』『名前だけなら』という答え。ショックだった」と藤井さん。条約の精神を、幅広い世代に伝えたと願い、絵本づくりを始めた。

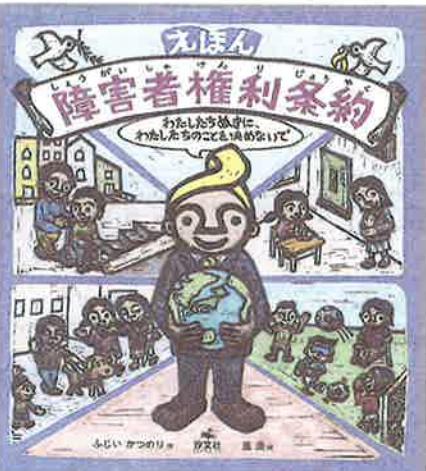
じめ当事者団体から「条約が骨抜きにならないよう、まず国内法の整備を」と声を上げり、一三年六月に障害者差別解消法が成立するなどしてから条約が批准された。

施設職員里圭さんに頼んだ。「目が見えないので、イメージ通りの絵になつてないかどうか、里さんとやりとりするのが最も大変でした」と振り返る。

絵本は「さあ、わけへだてのない社会のはじまりです」という言葉で結ばれている。藤井さんは「ハンディのある人もない人も平等に生きていく社会の実現のため、条約がどれだけ効力を發揮できるか。われわれも、受け入れ側も努力が必要です」と言う。

**障害者権利条約** 障害者の基本的人権と尊厳を保障するための人権条約。前文25項目、条文50カ条からなり、障害のない市民との平等の実現のため、差別や偏見をなくすことに重点が置かれている。表現や移動の自由、地域での自立した生活、政治や余暇活動への参加などを定める。

日本では、同協議会をは



## 全盲のNPO代表、絵本出版